

交詢

の問題を極めて平易に簡明に苟も文學あつて且幾分の素養のある人ならば何人にも容易に了解することが出来るやうに説明してある。哲學の専門家に取つてはもと飽き足らぬものである。けれど普通の歴史上支那哲學の發達の大要を容易に會得するには極めて都合よい手引である（發行所は國學院大學出版部定價壹圓）。（他はおひ〜）。



◎ 栃木たより

日頃は御無沙汰致し誠に申譯も御座なく候さて秋風たちめてより母校一きはに御なつかしく思ひたり居り候折から今回先生方をはじめ幹事皆様の御盡力にて文科會に私共迄も加入御許し下さるやう御計らひ下され候よし先日ばわざ〜御丁寧なる御葉書賜はり恭なく拜し上候。何卒々々加入御許し下され度會費さし添へ御願ひ申上候承れば承るごち羨しき母校の大發展皆々様の御よろこび如何ばかりに候ばん、私ども嬉しくていつも〜全寮の人と御噂いたしては御様子思ひ浮べ居り候最早教生と御なり遊ばすも近きうちと推し申候、何卒御身御大切に御勉強遊され度未ながら本會の爲一層御盡力下され候様御願申上候先は右御願ひまで、かしこ。

御推し下され候通り學校は随分變り申候九月よりは大体煉瓦校舎に移轉いたし候星斗闌々たる碧空に巍然たる聖堂を仰ぎてはそらに盛大なる前代の文運に恍惚と致し候、是れ丈に於ても私共は更に何等かの表現なくてはなるまじくご存候。（幹事）

◎ 千葉たより

秋風す〜しき昨日今日を如何御暮し遊ばされ候や私事こなき朝夕を過し居候ま、他事ながら御安心たまはり度候、此の夏は御蔭様にて樂しかりし多くの日をすこし今に折にふれてはかの折の事ども思ひ出申候、九月初旬より千葉にて平凡なる月日を暮し居候、先頃文科會より入會の事ども申し下され誠に御手数敷に候へども御送金いたすべく候ま、然るべく御取り計らい下され度願上候。

〇〇氏〇〇氏と私と三人分に御座候

秋晴の空す〜しき今日の午後を背戸の山に入り七草など手折りて参り候、都近しとは申せすがは田舎のこと丈ありて散歩には誠に宜しくこれのみ取柄に御座候先は右御願申上候、長閑けき秋郊の御ながめ詩趣多き御生活なざる可く御詠草など伺ひ度候、此にても秋は三ノ側（竹寮と改名いたし候）の萩に整ひて月すむ宵露けきあした歌おもふ人なきにしもあらず候、唯薄さいふもの庭さいふ庭のくま〜探しても見あたり候、はねは悲しき葉すれのこゑ床しき穉の色をおもふだにさすがに秋の物足らず候（幹事）

◎ 越後たより

雲の色に水の光に秋のけはひ著るしくな〜にすかんくしく覺えられ候折から先生には如何わたちせられ候にか、御

◎ 北海道たより

懐しき都あたりは残りの暑氣未だ去りかねる御事と存じ上候折から先生には益々御機嫌うるはしくいらせ候よし北の果てなる小樽の同窓生等しくかけながら御よろこび申上候さて當北海道は此の月のはじめ頃より最早秋風立ち初め候昨今ば殆ど裕せご相成りさきたま元氣なる人々の紺飛白をみ〜くる